



県病医療ニュース

〒870-8511 大分市豊饒二丁目8番1号 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係



※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

大分県立病院ウェブサイトはこちら

整形外科

ロコモティブシンドロームについて

ロコモティブシンドロームという言葉をご存じでしょうか

ロコモティブシンドローム(略してロコモ)とは、今から13年前の2007年に日本整形外科学会が提唱した、運動器の障害による要介護の状態、および要介護のリスクが高い状態と定義されています。日本全国で40歳以上の約4,700万人がロコモかその予備軍という研究報告があり、これは40歳以上の男性の63%、女性の69%に当たる人数です。ロコモでは運動器である骨、関節軟骨、椎間板、筋などの障害が、単独あるいは複合してみられます。また、関節や背骨に痛みが生じて歩行機能が低下し、要介護・要支援といった状態になってしまうことがあります。要介護・要支援の認定者数は年々増加し、2018年では644万人と報告されています。2016年の調査では介護が必要になった理由のうち、1位は認知症で18.0%、2位は脳卒中で16.6%でしたが、ロコモが関係する関節疾患、骨折・転倒を合わせると21.5%にも達しており、認知症や脳卒中と同じように重要な問題だということが分かります。

ロコモ予防に必要なこと

骨、関節軟骨、椎間板、筋などの運動器は、50代以上の多くの人で機能が低下し傷んでいきます。特に関節軟骨や椎間板は運動器のなかでも最初に障害を起こしてきます。私たちが意識的に取り組むことで、その効果が上がりやすいのは筋力で、足腰の筋力を鍛えていると、関節軟骨や椎間板の負担を減らすことができます。無理は禁物ですが、適度な運動を継続して行うことによって運動器の機能の低下を遅らせることが可能となり、生涯にわたって介護の必要のない生活を送るために重要となります。



(整形外科 部長 東 努)

消化器内科

超音波内視鏡による検査について

超音波内視鏡 (Endoscopic ultrasonography: EUS) は超音波装置を伴う内視鏡のことで、消化管 (食道・胃・十二指腸・大腸など) から超音波検査を行います。体の表面から行う通常の超音波検査とは異なり、胃・腸の中の空気や体の表面近くの脂肪、骨などの影響を受けにくく、超音波検査の特徴である高い分解能を活かし、目的とする臓器の画像評価が行えます。当院では2015年に専用スコープ (オリンパス社: GIF-UCT260) を導入し、主に膵臓・胆管・胆嚢、胃粘膜下腫瘍などの検査に使用しています。

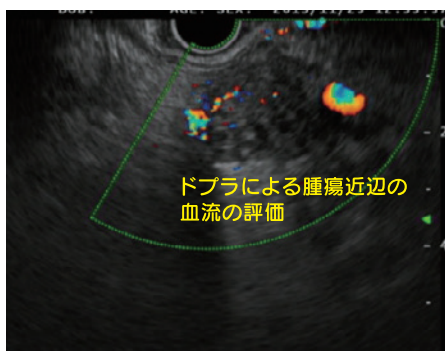
近年、膵臓・胆道領域の悪性腫瘍は増加傾向にあります。しかしこの領域の悪性腫瘍は症状が出にくいこともあり、CTやMRIなどの検査を受けた際、偶然に異常を指摘されることがあります。超音波内視鏡検査の特徴として、超音波内視鏡下吸引生検法 (EUS-FNA: EUS-guided fine needle aspiration) を行うこともできます。良悪性の判断がつきにくい場合もしばしば存在するため、EUS-FNAで病理学的な評価を行うことで、より正確な診断を行うことができます。



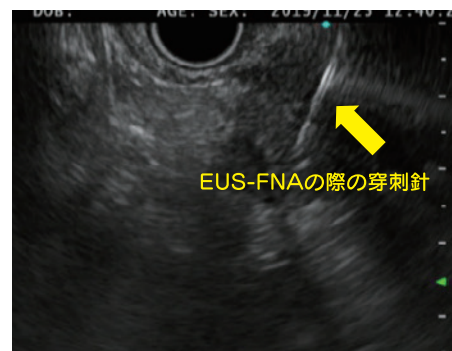
スコープ先端部と穿刺針



約2cmの膵腫瘍 (膵臓)

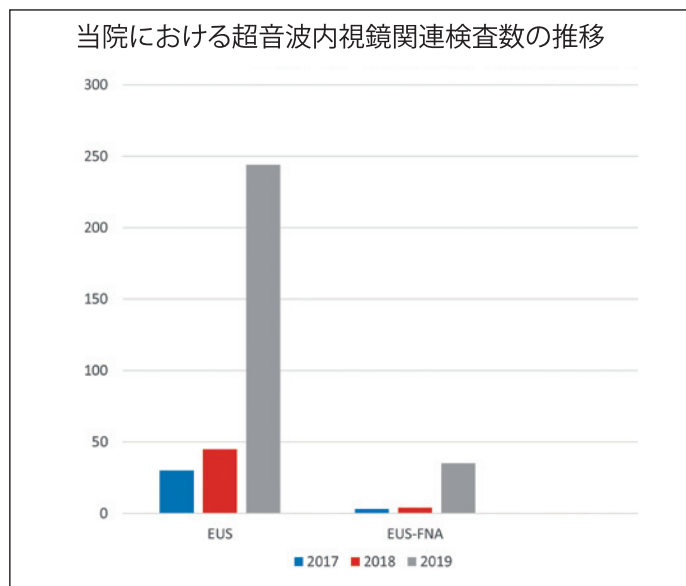


ドプラによる腫瘍近辺の血流の評価



EUS-FNAの際の穿刺針

当院での超音波内視鏡検査は年々増え続け、2019年は超音波内視鏡検査が244件、EUS-FNAが35件でした。当院で行う超音波内視鏡検査について興味がある方は消化器内科外来までお尋ねください。



(消化器内科 主任医師 岩津 伸一)



看護師ほか医療スタッフの臨時職員を募集しています。詳しくはこちら